

## 舞鶴湾のアサリの生殖周期 (要旨)

辻 秀 二・宗 清 正 廣・井 谷 匡 志・道 家 章 生

(京都府立海洋センター)

舞鶴湾内ではジョレン堀と素潜りによってアサリ *Ruditapes philippinarum* 漁業が行われている。その漁獲量は100～160トンであり、同漁業は湾内漁業の中でもっとも重要な位置を占めている。このため、客土による漁場造成などアサリ資源の培養、管理に努力がはられ、漁具の制限などが設定されている。しかし、資源管理に不可欠な本種の資源構造、成長様式、生殖周期、初めて成熟に達するサイズ等の生活史に関する基本的な情報は皆無に近いのが現状である。著者らは舞鶴湾におけるアサリの資源管理策を検討する上で必要な本種の資源生物学的な根拠を明らかにするために調査を続けてきた。今回は、舞鶴湾におけるアサリの生殖周期を中心とした成熟と産卵に関する二、三の知見について報告する。

なお、本報は京都府立海洋センター研究報告第17号に投稿したものであり、ここではその要約を述べる。

## 要 約

舞鶴湾産アサリの生殖腺の成熟状況を組織学的手法と肉眼観察手法により調査した。その結果、本種の生殖周期が明らかになり、その産卵期は6～12月と推定された。また、殻長25mm以上に達すると成熟し、生物学的最小形は殻長7～8mmであることや雌雄同体個体の存在も明らかになった。